



TSK

きゅうどくじや



No.73

発行：東北障害者団体定期刊行物協会 〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎1-12-6

編集：社会福祉法人求道舎 〒039-2516 青森県上北郡七戸町字館野32-15

TEL: 0176-62-3631 FAX: 0176-62-3694 E-mail: kyudosya@ruby.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.kyudosya.jp>

キリストに向かつての成長

大三沢教会牧師 澤橋 登



むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かつて成長していきます。

エフェソの信徒への手紙4章15節

私は、教会の牧師としての道が与えられた前、約四十年間中学校の教師として働きました。学校の教師と教会の牧師とに共通する仕事は、人の成長に関わることがあると思います。そして、その成長にとって最も大切なことは、一人一人に与えられている個性や賜物を大切にし、その人と共に歩んでいくことだと思います。

そのことを経験して学んだのは、私が三十五歳の時、英語の教師として米国で研修を受けた時でした。前半の三ヶ月はワシントン州の大学で語学研修を受け、後半の三ヶ月はボストン大学で、M.I.T.の大学院

生たれと一緒に授業を受けました。ボストンで私が選んだ授業は異文化理解で、米国で生活するいろいろな国々からの移民が、生活の中で経験するトラブル等の問題を読み、その原因や解決策を話し合った内容でした。

その授業を受け持つ女性の教授は、「私は指導者(ティーチャー)ではなく學習の促進者(ファシリテーター)です」と、最初の授業の時に話す。その姿勢で授業を導いていました。一人一人の経験を授業に活かし、それぞれのグループの調査の報告を聞き、一緒に野外調査に出かけたりしました。

あの學習の促進者(ファシリテーター)という言葉は、その後の教師としての仕事のテーマになりました。そのように、あの六ヶ月間の研修はその後の私の仕事や生き方に大きな影響を与える大切な経験となりました。

今、教会の牧師としてあのファシリテーターという言葉を捉え直すと、キリストの愛に根ざして共に歩むことだと感じます。今の時代は、教会の伝道が容易に進み成長

する状況ではあります。むしろ、困難な課題に直面され、少子高齢化や経済的悪化の中で、キリストの福音を伝える働きを工夫して進めなければなりません。

昨年十一月の初め、三沢市内の三つの教会が協力して市民クリスマスを行いました。一年前にゲストの演奏家を迎えて行った時は五十名の参加者が与えられましたから、今回は七十名を目標にしました。でも、実際は約半数の参加者数にとどまり、その後の反省会で落胆の声が上がりました。参加者が少なかった理由としては、今回はゲストを招かずして自分の演奏や賛美を中心に行つたことが影響していると思います。その分、それぞれの教会がどれだけ伝道できるかが問われていたのでした。

今後の方針としては、まずはそれを教会が伝道活動を見直すことから始めることになります。その時に大切なのが「愛に根ざして真理を語る」ことではないでしょうか。キリストの愛に根ざして、福音を伝えるのです。「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」という言葉が、同じ手紙の中に使われていますが、私たちはキリストの愛の豊かさ、その恵みの充満を教会生活や信仰生活の中でかぎりないことを願っています。その思いを周りの人々に

伝えたいと思います。

求道舎の働きでも、利用者一人一人の個性に寄り添うことで、その成長が促かされていきます。その働きを通して、キリストの愛がこの社会の中で実を結び、求道舎の成長に繋がると感じます。



キャロリングの様子

グループホーム クローバーの開設に当たって

理事長 小原義夫

献所の辞

野辺地町枇杷野に、念願のグループホームクローバーが完成しました。昨年の11月1日には献所式が行われました。「献所」という言葉

は、こういう場合に一般的に使われる言葉とは違いますが、意味するところは、神様の御業（みわざ）のために献（ささ）げる、ということです。求道舎でわれわれがしていることは、あくまで助けを必要としている人たちへの献身であって、事業利益を追求するものではありません。

神様の望まれる道が、どの方向にあるのか、私たちは自分たちの為すことが、神様によって祝福されるのか、そうでないのか、によって判断するしかありません。正に

「人の心には多くの計らいがある。神のみ旨のみが実現する。（箴言19章21節）」

この意味から、グループホームクローバーの事業は、神様の望まれる事業であることに疑いがありません。この事業を誠実に遂行して参りましょ。次に献所式において、私から神様に申し上げた献所の辞を掲げておきます。



今から3年前となる1987年に、故中津徳平氏が岩手のカナンの園、三愛学舎から七戸に戻られて、自前の障害者支援を始めたのは、徳平氏が72歳の時でした。大方の年配者であれば、人生の一仕事を終えられて悠々自適の生活に入れるのがごく普通のご年齢です。氏にとっては72歳も青春時代だったのではないかと思う時、人の心のあり方について深く学ばせられる思いです。その時に落とされた「一粒の種」が、現在では、七戸町に障害者²⁶名が通う通所施設「おおばこ」として育ち、定員6名の宿泊型施設「たんぽぽ」を生み、さらに野辺地町に障害者³³名が通う通所施設「クローバー」を設けるに至っています。そして本日、関係する方々の予てからの強い希望でありました野辺地町に於ける障害者向けの宿泊型施設「グループホームクローバー」が開所できる運びとなりました。20年を越える関係者の夢が現実のものとなりましたことを、皆さまとご一緒に喜びたいと思います。

本日ご列席いただいた方々は勿論のこと、本当に多くの支援者の方々に助けられての事業でございました。年々の全国の支援者からのご寄付・献金はコツコツと蓄えられて



約1000万円近くになり、切りつきました。国策の福祉医療機構からの借入金4000万円を加えて総額、かれこれ9000万円の事業となっています。設計、建設に携わって下さった会社の方々、立派な建物をありがとうございました。職員の頑張りも相当なものでした。ここに、関係された全ての方々に感謝の意を表したいと思います。

そして、この大きな事業を立ち上げさせてくださった天におられる神様、あなたの大きいなる恵みに感謝申し上げます。「最も小さき者にしたのは、わたしにしたのである。」と神は言われます。この導きに従つて、このグループホームクローバーの事業を誠実に遂行して参ります。私どもに、あなたの御守りと導きが常にござりますように。

おおばこ作業所

【クリスマス礼拝】



七戸教会でクリスマス礼拝を行いました。昨年度は、流行のウイルスのせいで参加者が少なく寂しかったですが、今年度は無事にみんなで楽しむことができました。利用者さんのハンドベル演奏や手話を用いた合唱は、練習より上手にできました。職員のハンドベル演奏では、演奏途中に謎の静寂があつたとか。



当日はみんな落ち着いて検査することができました。

毎年行う、年1回の健康診断。検診車の中で行う心電図検査やレントゲン検査、視力検査や注射器を使っての採血検査。いつも違う雰囲気の中、数日前からそわそわする方もいますが、当日はみんな落ち着いて検査することができました。

【健康診断】

【農福連携作業】



【落花生】

今年度は取れたて落花生を塩ゆでした、「ゆで落花生」を冷凍で販売しています。また、おばこ作業所親の会などからのご寄付のおかげで焙煎機を購入



農家の沼山直人さんの作業場で、じやがいもの箱作りと運搬の作業を3日間行いました。J△ゆうき青森で毎年行つてゐる、大根箱詰め作業の手伝いの経験が活かされましたね。



し、煎りたての「落花生」をお届けできるようになりました。ぬる落花生（ピーナッツバター）も好評販売中です。

ご注文は、おおばこ作業所までお願いします。道の駅しちのへでも販売中です。

クローバー作業所



【ハロウィーン&新年会】
毎年、秋には利用者しきとしてハロウィーンフェス、冬には新年会を行っていますが、今年度は今までよりもバージョンアップ!!

ハロウィーンしきでは、新たなゲームに射的を取り入れ、日玉イ

ベントとして棒パンを焼いて、樂しく美味しへお食事をしました。

新年会では、毎年恒例のビンゴ大会に加え、クローバー開運神社でのお参り・おみくじや福笑いをして、新年をお祝いしました。そして、回食には豚汁と鶏めしが振舞われました。

毎回しきの後には利用者さんから、「楽しかったよ。」というお声を頂くのですが、2025年のしきも楽しんでもらえるように、職員一同で一皮も、二皮もあけた利用者しきを企画していきたいと思います。

【調理実習】

クローバー作業所では、土曜開

所日を利用して調理実習を不定期に行っています。今年度は、9月

と11月に各1回、合計2回の調理実習を行いました。1回目はシチュー作り、2回目

はキーマカレー作りをしました。

皮むき・切る・煮る・ちぎるなど

の調理をみんなで協力して行い、

2回とも大成功の調理実習でした。

特に、キーマカレー作りの際は便利な調理器・ぶんぶんチップを使用して玉ねぎをみじん切りにしたり、食べる機会が少ないと思われるナンを食してもらいました。利用者さんには、「こんな

便利な道具があるのか。」とか「食べた事がなかったけど、食べてみたら美味しい。」という新しい発見や経験をしてもらえたと思います。



職員紹介

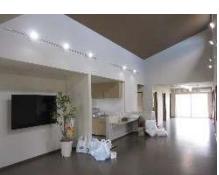
◎向中野 球美さん
(ねねこじゅくせきじょ)



伊瀬谷わんこ

がい、樂しき毎日です。みはいと
がケガ等やお故人へ想いかけぬもの
努めていたことに頭ごさか。心の
ものがこころを離こつね。

翁の。この機関誌作成も、最後
めでたくかこただせめた。長い
間本筋に疲れやめたっつ。



グループホーム クローバー
完成しました！

の田より生活支援職として勤務
しておられた向中野球美です。に
じいちゃんの服をか作業でせ、
重い物を一緒に持つてくれば、
わからぬ所は親切に教えてくれ
たのと、利用者さんとのな

された伊瀬谷秀史さんか、10月
末日で再雇用期間が終了し、退
職の運びとなつました。11月に
は利用者・保護者のみなさんと
お疲れ様なを讃美しました。30
年以上も求道のため、利用者
さんとのなに機関でいた伊瀬

伊瀬谷わんこ 感謝されました

野辺地町松原地区に建設中だ
ったグループホームがの田米田、
無事に完成いたしました。

地域の内々を始め、本町立営業
の施設の「」、施設の「」
が、地域の施設の「」、施設の「」
ました。11月に竣工式が行わ
れ、野辺地町の町長が越
し頂きました。この式典が開
催された。この式典が開
始しました。今後、開



社会福祉法人求道舎

◎七戸町

- ・おおばこ作業所（就労継続支援B型）
- ・グループホームたんぽぽ

◎野辺地町

- ・クローバー作業所（就労継続支援B型）
- ・生活介護事業所クローバー
- ・相談支援事業所クローバー
- ・グループホームクローバー

編
集
後
記

▼「支援」は出解が無い」と聞こ
たにじがおり。それが難しい
所でやあ、樂しき所でもある
と。▼「」がおこ
い季節になつた。自販機で貰
つた際、コーヒーを最後の一粒まで
飲み切るとなぜ、缶の蓋を呂くのが
正解だと聞いたにじがおつた。
いや実践。上を回れ、缶蓋を呂く
と、最後の一粒がのじる奥く行
く、むせ込む始末。自分の欲深や
に反省。」がおこつた。」
解のものか。」（中井一井）